

リアルタイムアノテーションによるプレゼンテーション相互評価の実践

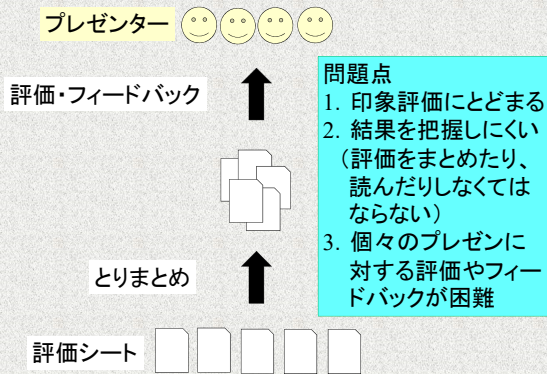
北村雅則(南山大学) 山口昌也(国立国語研究所)

概要

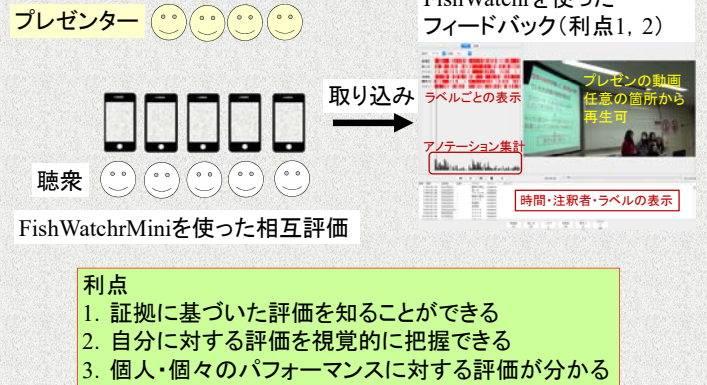
1. プレゼン相互評価の提案(評価シート方式からスマートフォンを使用したリアルタイムアノテーションによる相互評価へ)
2. スマートフォンを使ったリアルタイムアノテーションによるプレゼンの相互評価とフィードバックの実践紹介
3. 今後の展開

1. プレゼン相互評価の提案(評価シート方式からスマートフォンを使用したリアルタイムアノテーション相互評価へ)

《評価シート方式》



《提案手法》



プレゼンの概要

・大学1年生 約40名×3クラス、約20名×1クラス、「日本文化を紹介する」という課題で、3~4名のグループプレゼン(8~10分)を行った。

2. プレゼンの実践と相互評価・フィードバック

学習者 (FishWatchrMini)



教師 (FishWatchrMini & FishWatchr)



アノテーション総数

クラス	アノテーション数	出席者	発表グループ	記録時間
A1	1436	39	5	1:10:20
A2	1237	34	7	1:12:56
B1	530	19	3	0:41:54
B2	508	21	3	0:32:25
C1	1181	34	5	1:00:52
C2	1217	37	6	1:00:04
D1	1477	34	6	1:09:54
D2	1010	34	5	0:48:49

■事後アンケートの抜粋(回答128名)

- (1) FishWatchrMiniの準備や設定が簡単だった。
よく当てはまる: 43.0% それなりに当てはまる: 40.6%
- (2) FishWatchrMiniの操作が簡単だった
よく当てはまる: 64.1% それなりに当てはまる: 22.7%
- (3) 一人一人のプレゼンターの具体的な工夫に対して評価できる
ところがよかった
よく当てはまる: 58.6% それなりに当てはまる: 32.0%
- (4) この相互評価と振り返りを今後のプレゼンに活かせる
よく当てはまる: 59.4% それなりに当てはまる: 32.8%

3. 今後の展開

- ・スマートフォンでアノテーションの数や種類を表示できるようにし、学習者の簡易的な振り返りに活用(利点1, 3の強化)
- ・フィードバックの結果が、次回につながったかどうかを検証する(Kolbの経験学習モデルをふまえた検証)

詳細は、隣(P1p-15)へ